

北里研究所・東洋医学総合研究所活動報告

所 長 花 輪 壽 彦
担当理事 山 田 陽 城
(WHO 伝統医学研究所協力センター長)
名誉所長 大 塚 恭 男

本年度は新棟5年目を迎え、診療・研究・教育・啓発を中心とした事業を展開した。

公益事業としては、これまで同様にWHO伝統医学研究所協力センター活動、研究活動、及び教育活動を行った。

1) 大学院・学部教育

大学院教育：花輪壽彦所長は北里大学大学院医療系研究科「東洋医学」の指導教授（連携大学院客員教授）として「東洋医学」専攻の4名の大学院生の教育・研究指導を行った。平成17年度も医学部卒業の3名の大学院生が同博士課程に入学し、花輪教授より指導を受けることになっている。山田陽城部門長は北里大学大学院感染制御科学府（学府長：山田陽城）の「和漢薬利用科学」の指導教授として1名の博士課程の大学院生及び10名の修士課程の大学院生（2名の外研究生を含む）の教育・研究指導を行った。研究指導は北里大学北里生命科学研究所（所長：山田陽城）の和漢薬物学研究室で行った。山田教授は北里大学薬学研究科の教授も兼任し、博士課程学生1名の研究指導も行った。大学院感染制御科学府の清原寛章助教授、永井隆之室長補佐（専任講師）、松本司室長補佐（専任講師）、矢部武士主任（専任講師）も同大学院の基本技術講座を始め研究室所属大学院生の教育・研究指導を行った。

学部教育：花輪壽彦所長は引き続き北里大学客員教授として薬学部（東洋医学概論）の講義を清原寛章室長、早崎知幸医師とともに行った。また、花輪所長は医学部の講義を、また山田陽城部門長は同大学教授として薬学部（生薬学）の講義を担当した。また東医研からは10大学に講師を派遣し、東洋医学関連の講義を行っている。

2) 啓蒙活動

北里研究所・東洋医学総合研究所では啓蒙活動の一貫として、7月3日と12月4日に白金キャンパスの北里研究所病院と共催にて健康に関する市民セミナー「北里研究所公開健康セミナー（第9回及び第10回）」を開催し、第9回では高橋裕子医員による「漢方の話し～已病を治す、未病を治

す～」、また第10回では村主明彦部長による「生活習慣病と漢方」の講演があった。

また、10月2日には東洋医学の啓蒙活動として第4回東洋医学健康フォーラムが開催され、約300名の市民の出席のもと、花輪所長の挨拶に続き、曹洞宗大本山總持寺典座 小金山泰玄先生による「食と命～健康な心身の維持のために～」、続いて「癒食同源～食と東洋医学～」と題して東洋医学総合研究所医師によるラウンドディスカッション、漢方・鍼灸体験コーナーなどが催された。

3) 第26回医学生・研修医のための東洋医学セミナー開催

昭和51年以来、本セミナーは回を重ねて今回で26回目を迎えた。毎年全国各地から熱心な医学生・研修医が集い、東洋医学の基礎知識の習得と漢方・鍼灸の体験実習を約1週間に渡って行い、ここで学んだことをその後の勉強や臨床に生かしているようである。

平成16年度は8月2日から7日までの6日間の日程で開催し、北は北海道から南は九州までの全国各地の大学、さらに今回は海外の大学からの参加者までであった。人数も学生37名、研修医及び医師13名の計50名と定員いっぱい、大変にぎやかなセミナーとなった。

講習内容は、漢方・鍼灸医学の基礎理論から臨床の実際まで、またなかなか聴けない古典の話や漢方薬に関する最新の基礎研究の話など多岐に渡った。講師陣は、花輪所長を筆頭とする当研究所のスタッフに加え、当セミナーの趣旨にご賛同いただいた先生方に特別講義や見学指導という形でご参加いただいた。枳本天海堂の佐橋佳郎先生には「生薬の現況と展望」、当研究所顧問の大澤仲昭先生には「漢方のEBM」、富山医科薬科大学の寺澤捷年先生には「東洋の知と科学」と題し、それぞれのご専門の立場からすばらしいご講義をいただき、受講生のみならず聴講した所員にも大変勉強になった。

このセミナーの特徴のひとつとして漢方と鍼灸の実習がある。最近多くの大学で漢方医学の講義が行われるようになったが、脈診や腹診のやり方などの実技を実際に教えているところはまだほとんどない。そのためでもあるのか、第一線で診療に当たっている当研究所のスタッフから直接実技指導してもらえる漢方・鍼灸実習は大変人気で、皆真剣に取り組んでいた。薬局の実習も、実際に

自分で薬を調合することはまずないこともあり、大変貴重な経験になったようである。

東洋医学の診療と研究が当研究所の使命であるが、東洋医学のできる優秀な医師を育てるという“教育”についても、当研究所の果たす役割はますます重要なものとなっていくと思われる。

4) WHO 関係及び国際交流

8月30日にはWHO西太平洋地域伝統医学医務担当官のChoi博士が北里研究所東洋医学総合研究所を来所し、WHO伝統医学研究協力センターとしての役割と事業について山田陽城センター長、清原寛章事務局長と意見交換を行った。

山田陽城研究部門長は2月下旬に米国のUCLAで開催されたSecond Annual Integrative Medicine Symposium -Translating Science into Clinical Practice-においてfacultyとして漢方薬のEBMと臨床応用についての招待講演を、また7月下旬に中国の上海で開催されたMedicine in the Twenty First Century Tri-Conference & Bio-ForumにおいてInternational Advisorを努め、併せて漢方薬の薬効解明に関する招待講演を行った。山田部門長は10月にはフランス・ブルゴーニュ大学薬学部で「漢方薬の薬効解明」についての招待講演を行った。花輪壽彦所長は台湾の台北で開催された「中西整合医療の発展と展望」の学術討論会において日本における漢方薬のEBMについての科学的なアプローチと実証についての招待講演を行った。清原寛章室長は台湾の台北で開催された2nd International Herbal Medicine Symposium & Exhibitionで日本の漢方薬の位置付けと基礎研究についての招待講演を行った。伊藤剛漢方診療部副部長は5月初旬に韓国の慶尚国立大学で開催された「地球時代の薬用植物産業」の国際シンポジウムで「ストレス時代の東洋医学について」の招待講演を行った。また永井隆之室長補佐及び松本司室長補佐はJSPS-NRCT Core University System on Natural Medicine in Pharmaceutical Sciencesの協力大学として各々マヒドン大学で漢方薬の薬理作用に関する講義と共同の打ち合わせを行った。

5) 特殊外来開設

漢方診療部の特殊外来として、すでにレディースクリニック（内科系高橋医師、婦人科系関口医師）、キッズクリニック（早崎理香医師）、胃腸外来（伊藤副部長、及川副部長）、咳・呼吸器外来（高橋医師）、腎疾患外来（米田医師）、炎症性腸疾患外来（及川副部長、玄医師）、膝・腰・関節外来（八代医師）が開設されており、各医師

の専門性を生かした診療を受けることができると好評を博している。平成16年度は多彩な患者ニーズに応えるべく、過敏性腸症候群外来（伊藤副部長、胃腸外来より改称）、頭痛外来（五野医師）、糖尿病・甲状腺外来（有島医師）、自律神経失調症・循環器外来（小田口医師）、婦人科外来（関口医師）を新規に開設し、特殊外来の更なる充実を図った。

I. 診療部門

部門長	石野尚吾
漢方診療部	
所長	花輪壽彦
部長	村主明彦
客員部長	柳澤紘
副部長	伊藤剛
副部長	及川哲郎
医長	鈴木邦彦
医長	早崎知幸
医員	高橋裕子
特別研修医	八代忍
特別研修医	五野由佳理
特別研修医	関口敦子
特別研修医	有島武志
客員医師	佐藤弘
客員医師	頼建守
客員医師	早崎理香
客員医師	櫻井正智
客員医師	米田吉位
客員医師	大坪眞紀

◇漢方診療の活動概要

当研究所の漢方外来は漢方本来の姿である湯液を中心に据え、診療を行なっている。当然のことながら、漢方独特の診察法である四診に基づいて、病名治療ではなく、患者個人個人の病態に合わせたキメの細かい、テーラーメイド診療を実践している。

従前の一漢方診療担当医が、あらゆる方面の疾患を総合的に診るスタイルに加え、時代の要請もあり、多数の漢方専門外来を設置するに至った。本年度もその方針を継承した。

先発の漢方レディースクリニック（婦人科系/内科系）、キッズクリニック、婦人科外来、咳・呼吸器外来、炎症性腸疾患外来、膝・関節・疼痛外来に加え、頭痛外来、自律神経失調症・循環器外来、糖尿病・甲状腺外来を新設した。胃腸外来は過敏性腸症候群外来に呼称を変更した。また、医師異

動に伴い、腎疾患外来は休止とした。

これら専門外来の充実には当研究所独自の漢方特別研修医師制度を担う中堅医師の貢献に依るところ大である。

漢方診療専門機関である北里・東医研漢方診療部門には伝統的随証治療の修得と漢方医学の科学的解明を目的に全国、時に世界各地から多くの医師が集まる。受け入れにはいくつかのルートがあるのでここに紹介する。

第一は先に述べた漢方特別研修医師制度である。所属する医局の教授や病院長などの推薦のもと、2年の年限で漢方医学の実際を会得することを目標にしている。1期2～3名を定員とする。漢方については初心者であっても、それぞれの専門分野では既に専門医として第一線で活躍している中堅医師が大半であり、各自の専門分野の最新の知見については、漢方常勤医が逆の立場で教わることも多く、互いに鼓舞されるどころ大である。第二は花輪壽彦所長が兼任する北里大学大学院医療系研究科東洋医学の院生による所長外来陪席と各自の研究テーマの外来における実践である。第三は北里大学医学部学生の漢方外来見学である。これは同医学部の公衆衛生の実習の一環として受け入れを要請されているものである。第四は少数であるが、個人的な依頼による短期見学（ただし運営会議において了承される必要あり）である。

月曜日午前は所長の指導外来枠となっており、先輩医師の指導のもと、特別研修医師あるいは大学院生が輪番で予診をとり、漢方医学的仮診断・処方（鑑別処方を付記）を決定した後、所長の本外来に臨む。漢方診療のプロセスを体得できる数少ない機会である。本年度からは所長一人への教育役割集中軽減のため、オーベン・ネーベン制を導入した。外来以外にも漢方を学ぶ機会が用意されている。医局薬局勉強会、フォローアップ検討会、新患検討会、抄読会・リサーチカンファレンスなどである。このうち、新患検討会は、会に先立つ1週間の全新患を各担当医がプレゼンテーションする会である。この会で使用するデータベース作成の作業が特別研修医師に課せられる。新患ひとり一人の舌証・脈証・腹証・方剤…を打ち込んで行くきわめて煩瑣な作業である。しかし、陪席できなかつた漢方医の処方決定のプロセスをつぶさに検証することにも繋がり、目的意識をもって取り組めば、きわめて有益な漢方修得の機会となる。医局には専用の百味筆筒が用意されていて、自身で自由に漢方薬を調合し服用することができる。研修医には研修期間中に大方の処方については、必ず煎じてその味・におい・服薬のしやすさ等を体得するよう要求される。個々の漢方薬

の特徴をつかむと同時に、患者の立場にたった医療を感得する貴重な体験である。半年もすると、医局で煎じている漢方薬を、そのにおいから当てることができるほどに進歩する。特別研修医師・常勤医も含め、医局員の大半は臨床研究部研究員および隣接する北里研究所病院総合内科医師を兼任している。必要があれば動物も含めた各種実験・研究も行える。また、必要があれば各種血液・生化学検査、画像診断、光学医療診断を行なうことも可能で、診療の自由度という点では申し分のない環境である。東医研から北里研究所病院には毎週上部消化管検査および下部消化管検査に人員を提供している。さらに、同病院の内科当直業務も分担し、万全な協力体制がとられている。昨今の医療事情に鑑み、副作用のチェックには殊のほか注意を払っている。一定の制約はあるが、採血・超音波検査はルチーンに行える。また、研究も兼ね数多くの生理学的検査が実施されている。

研究とはいっても、患者様が研究の材料であってならないのは当然のことである。北里東医研では十分なインフォームドコンセントのもと、患者様に十分に御納得いただいた後に、治療や検査を実施している。

教育・診療・研究の三位一体の実践はなかなか難しいところであるが、日本の本格的漢方診療研究機関のパイオニアを自認する北里・東医研に寄せられる期待には大きいものがある。それらの期待に真摯に応えていくことがわれわれに課せられた使命ともいえる。

◇著 書

- 1) 寺澤捷年, 花輪壽彦, 編集: 漢方診療二頁の秘訣, 金原出版 (2004)
- 2) 花輪壽彦: 気剤の効かせ方—香蘇散と半夏厚朴湯—, 漢方診療二頁の秘訣, 金原出版 (2004)
- 3) 早崎知幸: 瞑眩? 副作用?, 漢方診療2頁の秘訣, p58-59, 金原出版 (2004)
- 4) 伊藤剛: 背診と切経のツボ, 漢方診療2頁の秘訣, p78-79, 金原出版 (2004)
- 5) 及川哲郎: 消化器内視鏡所見と漢方処方, 漢方診療2頁の秘訣, p132-133, 金原出版 (2004)
- 6) 石野尚吾: 月経困難症, 漢方診療2頁の秘訣, p138-139, 金原出版 (2004)
- 7) 村主明彦: 私のアトピー性皮膚炎の漢方治療, 漢方診療2頁の秘訣, p188-189, 金原出版 (2004)
- 8) 鈴木邦彦: 小柴胡湯方後の加減について, 漢方診療2頁の秘訣, p224-225, 金原出版

(2004)

- 9) 村主明彦：胃炎、胃・十二指腸潰瘍，漢方相談ガイド，p124-147，南山堂（2004）

◇総 説

- 1) 玄世鋒，八代忍，花輪壽彦：北里東医研診療録から(6)舌診に清熱補氣湯・清熱下鬱湯を処方して有効であった 2 症例，漢方の臨床，51(1)：115-119（2004）
- 2) 及川哲郎，伊藤剛，花輪壽彦：北里東医研診療録から(7)附子理中湯の 2 症例，漢方の臨床，51(2)：250-252（2004）
- 3) 花輪壽彦：矢数道明先生・北里東医研所長時代の処方傾向について，第 13 回漢方治療研究会矢数道明先生一年忌記念講演，漢方の臨床，51(3)：309-318（2004）
- 4) 櫻井正智，米田吉位，花輪壽彦：北里東医研診療録から(8)治頭瘡一方の使用経験，漢方の臨床，51(3)：384-387（2004）
- 5) 大坪眞紀，高橋裕子，花輪壽彦：北里東医研診療録から(9)慢性副鼻腔炎・慢性扁桃炎に千金内托散が有効であった 3 症例，漢方の臨床，51(4)：504-507（2004）
- 6) 八代忍，玄世鋒，花輪壽彦：北里東医研診療録から(10)，「不定愁訴」や精神症状をみない症例に対する加味逍遙散の適応についての考察，漢方の臨床，51(5)：631-633（2004）
- 7) 早崎知幸，頼建守，花輪壽彦：北里東医研診療録から(11)烏薬順気散料と回首散料の使用経験，漢方の臨床，51(6)：791-794（2004）
- 8) 五野由佳理，八代忍，櫻井正智，花輪壽彦：北里東医研診療録から(12)脳梗塞に補陽還五湯を処方した 2 症例，漢方の臨床，51(7)：904-906（2004）
- 9) 高橋裕子，米田吉位，関口敦子：北里東医研診療録から(13)小建中湯の使用経験，漢方の臨床，51(8)：1036-1040（2004）
- 10) 鈴木邦彦，村主明彦，花輪壽彦：北里東医研診療録から(14)啓脾湯が有効であった 3 症例，漢方の臨床，51(9)：1222-1226（2004）
- 11) 八代忍，高橋裕子，有島武志，花輪壽彦：北里東医研診療録から(15)桂姜棗草黃辛附湯の処方目標についての考察，漢方の臨床，51(5)：1392-1396（2004）
- 12) 五野由佳理，高橋裕子，櫻井正智，花輪壽彦：北里東医研診療録から(16)慢性疲労症候群と疑い症例の 3 症例漢方の臨床，51(11)：1504-1508（2004）
- 13) 伊藤剛，及川哲郎，花輪壽彦：北里東医研診療録から(17)神経性無食欲症に対する分心

気飲の使用経験より，漢方の臨床，51(11)：1643-1654（2004）

- 14) 高橋裕子，花輪壽彦：ジェンダー医学と漢方，医学のあゆみ，210(13)：1087-1092（2004）
- 15) 大坪眞紀，花輪壽彦：漢方における女性医療，ホルモンと臨床，52(6)：1-5（2004）
- 16) 石橋晃，野中博，花輪壽彦，浅岡俊之：座談会，これからの漢方 コア・カリキュラム時代の役割，日本醫事新報，4196：1-14（2004）
- 17) 花輪壽彦：コア・カリキュラム時代の漢方 第 1 講 現代医療の中の漢方，日本醫事新報，4199：20-24（2004）
- 18) 花輪壽彦：コア・カリキュラム時代の漢方 第 2 講 「証」の医学，日本醫事新報，4204：14-18（2004）
- 19) 花輪壽彦：コア・カリキュラム時代の漢方 第 3 講 漢方の基本概念について，日本醫事新報，4208：19-24（2004）

◇学会報告

- 1) 及川哲郎：上部消化管運動に及ぼす半夏厚朴湯の効果～FD患者を中心とした検討～，第 90 回日本消化器病学会総会，宮城，2004. 4. 22
- 2) 米田吉位，花輪壽彦，西郡秀文，金成俊，山田陽城：漢方煎じ薬中の電解質濃度，第 49 回日本透析医学会，兵庫，2004. 6. 18-20
- 3) 伊藤 剛，長谷川愛子，高橋裕子，花輪壽彦：中核温ならびに自律神経よりみた「四肢型冷え症」の病態，第 55 回日本東洋医学会総会，横浜，2004. 6. 25-27
- 4) 及川哲郎：上部消化管運動に対する漢方薬の効果～半夏厚朴湯を中心に～，第 55 回日本東洋医学会，神奈川，2004. 6. 25-27
- 5) 米田吉位，竹内ゆかり，高橋裕子，鈴木邦彦，柳沢紘，伊藤剛，村主明彦，花輪 壽彦：半夏厚朴湯の動脈硬化に対する脈波伝播速度(PWV)を用いた検討，第 55 回日本東洋医学会学術総会，神奈川，2004. 6. 25-27
- 6) 永田勝太郎，市山新，花輪壽彦：卒前東洋医学教育の評価，第 55 回日本東洋医学会学術総会，横浜，2004. 6. 25-27
- 7) 伊藤 剛，大坪眞紀，及川哲郎，高橋裕子，鈴木邦彦，八代忍，米田吉位，萩野浩志，花輪壽彦：海苔オリゴペプチドの冷え症に対する臨床的効果の検討，第 21 回和漢医薬学会大会，富山，2004. 8. 21-22
- 8) 八代忍，花輪壽彦：関節液中の関節マーカー測定による早期関節リウマチに対する防己黄耆湯の客観的有効性評価の試み，第 21 回和漢医薬学会大会，富山，2004. 8. 21-22

- 9) 伊藤 剛：摂食障害に対する分心気飲の使用経験，第 14 回漢方治療研究会，東京，2008. 9. 26
- 10) 伊藤 剛，若杉安希乃，小田口浩，花輪壽彦：深部体温と深部血流ならびに自律神経機能よりみた冷え性の病態，第57回日本自律神経学会総会，長崎，2004. 10. 28-29
- 11) 有島武志：補中益気湯が有効と考えられた糖尿病に併発した食事性低血圧の一例，日本糖尿病学会（近畿地方会），大阪，2004. 11. 6

◇シンポジウム・講演会

- 1) 花輪壽彦：東洋医学を治療に活かそう！，北陸地区北里大学医学部同窓会例会，石川，2004. 1. 30
- 2) 花輪壽彦：頭痛診療における漢方の役割，厚生労働省慢性頭痛治療ガイドライン作成に関する研究平成15年度第2回研究班会議，東京，2004. 2. 6
- 3) 花輪壽彦：漢方のまとめ，平成 15 年度漢方薬・生薬研修会，東京，2004. 2. 15
- 4) 花輪壽彦：漢方概論，平成 16 年度漢方薬・生薬研修会，東京，2004. 4. 11
- 5) Go Ito : Oriental Medicine in A High-stress Era-Two Brains, Two Medicines, The 4th Symposium for Medical Plant Industry in Global Era, Korea, 2004. 5. 8
- 6) 及川哲郎：漢方医学と治療の実際，えびす大学，東京，2004. 5. 11
- 7) 花輪壽彦：加齢と漢方，第 3 回女性のための抗加齢医学研究会学術集会，ランチョンセミナー，静岡，2004. 5. 16
- 8) 石野尚吾：漢方総論，平成 16 年度漢方医学講座—臨床講座—，東京，2004. 6. 6
- 9) 花輪壽彦：腎と漢方，東京慈恵会医科大学泌尿器科教室 2004 年同門会総会特別講演，東京，2004. 6. 12
- 10) 花輪壽彦：漢方各論 (1) —免疫・アレルギー—，平成 16 年度漢方薬・生薬研修会，東京，2004. 6. 20
- 11) 花輪壽彦：気剤の効き方，第 55 回日本東洋医学会学術総会シンポジウム，2004. 6. 26
- 12) 花輪壽彦，早崎知幸，大坪眞紀，米田吉位，八代忍：指定講演 モーニングセミナー「漢方修学の実際」，第 55 回日本東洋医学会学術総会，神奈川，2004. 6. 25
- 13) 花輪壽彦ら：ミート・ザ・ティーチャー，第 55 回日本東洋医学会学術総会イブニングセミナー，横浜，2004. 6. 26
- 14) 花輪壽彦：証を考える～証の変遷について～，第 55 回日本東洋医学会学術総会ランチョンセミナー，2004. 6. 27
- 15) 花輪壽彦：東洋医学の現状と展望，北里大学大学院講義，神奈川，2004. 7. 2
- 16) 及川哲郎：クローン病の漢方治療，神奈川県クローン病患者会医療講演会，神奈川，2004. 7. 3
- 17) 高橋裕子：漢方のお話～已病を治す，未病を治す～，北里研究所第9回公開健康セミナー，東京，2004. 7. 3
- 18) 花輪壽彦：漢方各論 (2) —漢方診療の諸注意—，平成 16 年度漢方薬・生薬研修会，東京，2004. 7. 25
- 19) 有島武志：良医になるための東洋医学の叡智を学ぶ④生薬学，処方学，第一回大阪漢方塾，大阪，2004. 8. 17-20
- 20) 花輪壽彦：東洋医学の特質と展望，日本東洋医学会卒前セミナー，東京，2004. 8. 23
- 21) 花輪壽彦：東洋医学概論（漢方医学総論），浜松医科大学講義，静岡，2004. 9. 2
- 22) 花輪壽彦：東洋医学的診断・治療の実際（実習），浜松医科大学講義，静岡，2004. 9. 2
- 23) 花輪壽彦：泌尿器科疾患の漢方治療，北里大学医学部講義，神奈川，2004. 9. 14
- 24) 花輪壽彦：石膏と石膏を含む処方の解説，昭和大学特別講義，東京，2004. 9. 15
- 25) 石野尚吾，村主明彦，伊藤剛，早崎知幸，中島千鹿子：癒食同源一食と東洋医学一，北里研究所，第 4 回東洋医学健康フォーラム，東京，2004. 10. 2
- 26) 花輪壽彦：東洋医学とは，北里大学薬学部講義，東京，2004. 10. 6
- 27) 花輪壽彦：現代医療と漢方医学，三重大学医学部特別講演，2004. 10. 14
- 28) 花輪壽彦：漢方診療の進め方～基本的な漢方の考え方と臨床応用～，岐阜大学医学部特別講演，2004. 10. 16
- 29) 鈴木邦彦：附子を含む代表処方の運用，昭和大学，第 38 回東洋医学研究会，東京，2004. 10. 25
- 30) 石野尚吾：生活習慣病と漢方，藤田保健衛生大学 市民医学フォーラム，名古屋，2004. 10. 30
- 31) 鈴木邦彦：生活習慣病について—漢方医学の立場から—，川口市議会議員倶楽部，健康管理研修会講演，埼玉，2004. 11. 1
- 32) Toshihiko Hanawa : Scientific approach and estimation based on EBM for Kampo medicine in Japan, 「中西整合医療の発展と展望」学術討論会，台湾，2004. 11. 5

- 33) 五野由佳理：モーニングディスカッション
日韓の頭痛診療の具体的な問題点-，第32回
日本頭痛学会，鹿児島，2004.11.13
- 34) 早崎理香：育てよう！子どもの健康な心と身
体，川崎市教育委員会主催，心と身体を育て
る食事の会，神奈川，2004.11.17
- 35) 早崎知幸：子どもの心が輝く方法，人間性復
活運動本部主催，第4回明るい明日を考える
集い，埼玉，2004.11.21
- 36) 早崎知幸：知らなかった心と身体の話，白金
幼稚園，母親教育講演会，東京，2004.11.26
- 37) 花輪壽彦：治療ガイドライン作成のための漢
方の役割，慢性頭痛の診療ガイドライン作成
に関する研究，東京，2004.12.4
- 38) 早崎知幸：心と体のメッセージ -東洋医学
からDNA思議なお話-，人間性復活運動本部
主催，第4回明るい明日を考える集い，東京，
2004.12.5

◇プロシーディング

- 1) Go Ito : Oriental Medicine in A High-stress
Era -Two Brains, Two Medicines, Symposium
for Medical Plant Industry in Global Era
p59-79, (2004)
- 2) 早崎知幸, 小金山泰玄: 食を考える, 禅の友,
5月号, p4-11, (2004)

◇研究報告書

- 1) 花輪壽彦, 若杉安希乃, 小田口浩, 五野由佳
里, 坂井文彦: 漢方の役割, 厚生労働科学研
究費補助金こころの健康科学研究事業 慢性
頭痛の診療ガイドライン作成に関する研究
(H14-こころ-014) 平成15年度統括・分
担研究報告書 主任研究者 坂井文彦
(2004.3)

◇その他

- 1) 花輪壽彦: 漢方用語の基礎知識 (その1) 証,
漢方調剤研究, 12(1):11 (2004)
- 2) 花輪壽彦: 漢方用語の基礎知識 (その2) 証,
漢方調剤研究, 12(2):30 (2004)
- 3) 花輪壽彦: すべての医学生が漢方を学ぶ時代
に, 週刊朝日, 6/18号 p80 (2004)
- 4) 花輪壽彦: 「証」を科学する, メディカル朝
日, 7月号 p82-85 (2004)
- 5) 花輪壽彦: 医学教育に漢方が“復活”, メデ
ィカル朝日, 8月号 p80-83 (2004)
- 6) 花輪壽彦: 漢方用語の基礎知識 (その3) 証,
漢方調剤研究, 12(3):52 (2004)
- 7) 花輪壽彦: 漢方用語の基礎知識 (その4) 証,

- 漢方調剤研究, 12(4):72 (2004)
- 8) 伊藤剛: 二つの脳, 二つの医学, クリンネス,
1月号, p39 (2004)
- 9) 及川哲郎: かぜの季節~漢方でお大事に~, ク
リンネス, 2月号, p37 (2004)
- 10) 花輪壽彦: 東洋医学への招待, 東洋医学のス
スメ, 禅の友, 1月号, p26 (2004)
- 11) 伊藤剛: 東洋医学と看護, 禅の友, 5月号,
p26 (2004)
- 12) 大坪真紀: 漢方と女性, 禅の友, 6月号, p
26 (2004)
- 13) 鈴木邦彦: 夏バテと漢方, 禅の友, 7月号, p26
(2004)
- 14) 村主明彦: 東洋医学のススメリ柿の効用一, 禅
の友, 9月号, p26 (2004)
- 15) 早崎知幸: 仏教と東洋医学, 禅の友, 10月号,
P26 (2004)
- 16) 高橋裕子: 風邪の季節に, 禅の友, 11月号, p26
(2004)
- 17) 及川哲郎: 胃腸と漢方, 禅の友, 12月号, p
26 (2004)
- 18) 村主明彦: 蓄膿症には葛根湯, メディアあさ
ひかわ, 1月号, p177 (2004)
- 19) 村主明彦: うつ病に半夏厚朴湯など, メディ
アあさひかわ, 2月号, p105 (2004)
- 20) 村主明彦: 脳卒中の後遺症に続命湯, メディ
アあさひかわ, 3月号, p101 (2004)
- 21) 村主明彦: 瞼の痙攣に抑肝散など, メディア
あさひかわ, 4月号, p105 (2004)
- 22) 村主明彦: リンパ浮腫に神効湯, メディアあ
さひかわ, 5月号, p105 (2004)
- 23) 村主明彦: 円形脱毛症に「柴胡加竜骨牡蛎湯」,
メディアあさひかわ, 6月号, p105 (2004)
- 24) 村主明彦: お年寄りの便秘に潤腸湯, メディ
アあさひかわ, 7月号, p105 (2004)
- 25) 村主明彦: パニック障害に奔豚湯, メディア
あさひかわ, 8月号, p121 (2004)
- 26) 村主明彦: 前立腺肥大の症状に八味地黄丸, メ
ディアあさひかわ, 9月号, p105 (2004)
- 27) 村主明彦: 中高年女性の膝痛に防己黄耆湯, メ
ディアあさひかわ, 10月号, p105 (2004)
- 28) 村主明彦: 糖尿病に八味地黄丸や牛車腎気丸,
メディアあさひかわ, 11月号, p105 (2004)
- 29) 村主明彦: 慢性の耳鳴に釣藤散など, メディ
アあさひかわ, 12月号, p117 (2004)

I-2. 鍼灸診療部

部長(兼務) 石野尚吾
客員部長(兼務) 柳澤紘
医師(兼務) 伊藤剛

主任 石原 武
主任 今泉 護
主任 小山 基
非常勤鍼灸師 掛川 一五

◇診療業務などの活動概要

現在鍼灸診療部は、午前・午後とも予約制としており、月曜日から土曜日まで診療を行っている。

毎週1回、新患を始め現在来院中の患者全員について臨床的な検討を継続的にを行い、治療に反映させている。

近年、新聞記事やインターネットを見て、あるいは口コミで来院する新規患者や再診の患者が多くなり、鍼灸の受診患者数は増加してきている。また見学者、研修生の希望も多い。

◇研究概要

- 1) 下記の諸疾患に対する鍼治療の臨床的効果、およびその影響に関する検討と解析の継続：
〔変形性膝関節症、帯状疱疹後神経痛、顔面神経麻痺、慢性関節リウマチ、アトピー性皮膚炎、尿失禁〕
- 2) 疼痛に関する臨床的研究
- 3) 鍼灸治療の免疫機能への影響の検討
- 4) 鍼治療が「転倒予防」に寄与する効果についての検討

◇総 説

- 1) 柳澤 紘：皮内針三分間治療のコツー初期のOA（変形性膝関節症）に皮内針治療ー、漢方診療二頁の秘訣，金原出版，分担執筆：154～155，2004.2
- 2) 石野尚吾：健康に効果的な経穴（つぼ），禅の友-3月号，曹洞宗宗務庁：26，2004.3.
- 3) 石野尚吾：鍼灸治療について，日中医学，18（6）：7～13，2004.3
- 4) 石野尚吾：鍼灸，成人病と生活習慣病，34（4）：1016～1024，2004.4
- 5) 石野尚吾：鍼灸，現代医療，36（8）：43～50，2004.8

◇講 演

- 1) 石野尚吾：鍼灸について，日本大学医学部6年生東洋医学講義，東京，2004.6.3
- 2) 石野尚吾：元気悠悠東洋医学，東洋医学市民講座，藤沢市，2004.10.31

◇その他

- 1) 石野尚吾：鍼灸よろず相談，日本経済新聞，毎週火曜日夕刊連載

Ⅱ. 薬剤部門薬剤部

部門長（兼務） 山田 陽城
部長 金成 俊
科長補佐 緒方 千秋
主任 坂田 幸治
薬剤師 今野 初子
薬剤師 西郡 秀文
薬剤師 小林 文子
薬剤師 水澤 深雪
薬剤師 中村 恵子
薬剤師（嘱託） 坂本 壮一郎（4/1～）
薬剤師（非常勤） 伊東 美貴（3/31まで）
薬剤師（非常勤） 山岡 法子
薬剤師（研究生） 岸 麻理子（3/31 修了）
卒論生 諏訪 陽子（9/7-11/17）

◇研究概要

薬剤部では、生薬調剤を基本としており、研究所における漢方の臨床薬局として、薬剤業務に関する諸問題改善を前提に各自が研究テーマを定め、テーマ毎に研究活動を行いその成果を学会等に報告している。

今年度の研究内容を以下に示す。

- 1) 3次元クロマトグラフィによる漢方製剤の品質評価
- 2) 東医研オリジナル漢方製剤の管理方法の検討
- 3) 特殊な古典煎出方法（酒煎）の意義
- 4) 生薬標本の整理とデータベース化
- 5) 初診患者の動向及び疾患による処方解析
- 6) 植物・生薬スライドのデータベース化への運用
- 7) 煎じ薬の濃度に関する漢方薬煎液パラメーター調査
- 8) 生薬名の来歴調査
- 9) 服薬指導の英語（字幕）ビデオの作成
- 10) 西洋薬・サプリメント・OTCなどと漢方薬併用の調査とPCによる情報提供の検討
- 11) 漢方製剤の煎出時間の違いによる成分比較
- 12) 生薬及び漢方薬の電解質濃度の検討
- 13) 処方原典の調査とデータベース化
- 14) 治療中止処方とその理由についての考察
- 15) 処方解析による北里東医研処方傾向の検討

◇薬剤業務の活動内容

今年度は薬剤部人事の改変が実施され、今後北里東医研薬剤部として歩むべき方向性について再考すべき年でもあった。現在薬剤部は中堅職員が中心となっており、調剤業務などの実務は問題な

く行われている。ここ数年患者から薬剤師に対する問い合わせが多くなっており、患者に対する充実した服薬指導の必要性を実感している。そのため、職員の知識をレベルアップすることが要求されている。漢方薬はもちろんのこと、西洋薬やサプリメントの知識も必要である。文献で得られる情報以外に、漢方薬の古典的な基礎知識の修得に努め、患者に反映できるような情報提供を考えている。

一方2年前に開始した「煎じ代行」業務は、身体が不自由、高齢、多忙などの理由により煎じられない患者に、その後も好評を得ており、当薬剤部において新しい漢方薬の剤形として定着している。今後は希望者が増えた場合の対応を迫られるものと予想される。

また調剤監査の改善においても、ヒヤリハット報告の導入に伴い、調剤過誤の発生しやすい状況を職員に周知徹底させ、安全な高品質の生薬購入に努め、自費診療機関として充実した漢方薬の提供がさらに進められている。

◇教育啓蒙活動

継続して帝京大学薬学部、東洋医学概論の講義に講師を派遣している。春期と夏期の年2回行っている2週間病院実習に北里大学薬学部、明治薬科大学薬学部から約20名の薬学生を受け入れた。当薬局のような漢方薬の実習が行える薬局は少ないため、今年度も希望者が増加した。実習終了後に茶話会を開き、学生とスタッフの率直な意見交換を行っており、当薬剤部の実習を履修した薬学生は東洋医学に対する興味がさらに高まり、実習で得た知識を将来に役立てたいと考えているようである。また北里大学薬学部3年生の半日実習も実施している。

一方、毎年夏に行われている医学生のための夏期セミナーでは、例年通り漢方薬に触れる機会の少ない約50名の医師や医学生各自が漢方薬の調剤を行い、実際に煎じ薬を煎じて服用する薬局実習を行った。特に今年度はすでに医療現場で活躍している医師の希望者が多く、参加者には実際漢方エキス剤を扱っている医師もいたが、基本となる煎じ薬の調剤現場では、大変興味をもって薬局実習を学んでいた。

医学部において漢方医学の講義が実施されており、また薬学部においても6年制移行に伴い漢方薬の講義が増えることも予想され、漢方薬に関心のある医師や薬剤師に、診療部と共に漢方治療の基本である漢方薬の情報を提供することも北里東医研薬剤部の重要な使命と考えている。

今年度の「東洋医学健康フォーラム」では、漢

方薬の産地や調剤方法の見学・漢方薬の説明・試飲以外に、「香辛料に用いられている漢方薬」のパネル展示を行い、大変好評であった。

さらに JICA からの外国薬剤師に対する教育実習を実施し、各国の伝統医学との情報交換が行えた。また高校生の企業研修として、沖縄県立球陽高校の学生を受け入れた。

<薬剤部教育現況>

○薬学生病院実習：北里大学薬学部10名、明治薬科大学2名、3.1-12

○帝京大学薬学部東洋医学概論講義 2004.4.14, 4.21, 4.28 (担当：金 成俊)

○薬学生病院実習：北里大学薬学部5名、明治薬科大学2名、8.2-13

○第26回医学生・研修医のための東洋医学セミナー、2004.8.4

○沖縄県立球陽高等学校企業研修：2年生8名、2004.11.9

○2004年度 JICA 病院薬学Ⅱ：ガーナ2名、ケニア1名、ラオス1名、ニカラグア1名、パプアニューギニア2名、パラグアイ1名、フィリピン1名、2004.11.27

○卒論生：共立薬科大学1名、2004.9.7-11.17

◇論文

1) 金 成俊, 今野初子, 緒方千秋, 坂田幸治, 山田陽城, 花輪壽彦：漢方薬服用患者からの問い合わせの現況とその対応についての検討, 日本病院薬剤師会雑誌, 第40巻6号683-687, 2004

2) 金 成俊, 松本 司, 清原寛章, 早崎知幸, 村主明彦, 花輪壽彦, 山田陽城：薬学生による漢方医学教育の評価, J. Trad. Med. Vol. 21 No. 5, 2004

◇学会報告

1) 金 成俊, 松本 司, 清原寛章, 早崎知幸, 村主明彦, 花輪壽彦, 山田陽城：薬学生から見た漢方医学教育の評価, 日本薬学会124年会, 大阪, 2004.3.29-31

2) 金 成俊, 坂田幸治, 緒方千秋, 山田陽城, 花輪壽彦：煎じ薬の濃度に影響するエキス量及び収率の検討, 第55回日本東洋医学会学術総会, 横浜, 2004.6.25-28

3) 金 成俊, 坂田幸治, 布目慎勇, 花輪壽彦, 山田陽城：種子・果実生薬の剤形の相違による煎液の比較検討, 第21回和漢医薬学会学術総会, 2004.8.21-22

4) 金 成俊, 水澤深雪, 緒方千秋, 山田陽城：漢方薬の服薬中断の理由についての調査と服

薬指導への活用, 第 37 回日本薬剤師会学術大会, 青森, 2004. 10. 10-11

◇その他

- 1) 花輪壽彦, 金 成俊: 漢方薬~カゼ薬を中心に~, 今日の健康, 2004. 1. 165-172
- 2) 金 成俊: 漢方製剤服用時の水温, 日本医事新報, No. 4162, 2004. 1.
- 3) 金 成俊: 漢方医学講座臨床講座一桂枝類方生薬解説一, 日本漢方医学研究所, 2004. 9. 5.
- 4) 金 成俊: 漢方医学講座臨床講座一麻黄類方生薬解説一, 日本漢方医学研究所, 2004. 12. 12.

Ⅲ. 研究部門

研究部門長 山 田 陽 城 (兼担)

Ⅲ-1. 基礎研究部

部長 (兼担) 山 田 陽 城 (北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室教授・同大学院感染制御科学府教授)

副部長 (兼担) 清 原 寛 章 (北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室助教授)

室長補佐 (兼担) 永 井 隆 之 (北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室講師)

室長補佐 (兼担) 松 本 司 (北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室講師)

矢 部 武 士 (北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室講師)

研究員 (兼務) 金 成 俊
(薬剤部部長)

研究員 (兼務) 坂 田 幸 治
(薬剤部主任)

研究員 (兼務) 西 郡 秀 文 (薬剤部薬剤師)

客員研究員 布 目 慎 勇

客員研究員 Sahar Abdel-Wahab Mohamed El-Mekkawy (平成 16 年 1 月 1 日 ~平成 16 年 8 月 31 日)

留学研究員 Noppamas Soonthornchareonnon (タイ・マヒドン大学, 平成 16 年 3 月 20 日 ~平成 16 年 4 月 19 日)

Nattawee Pansheebchue (タイ・マヒドン大学, 平成 16 年 3 月

20 日 ~平成 16 年 5 月 19 日)
Monnun Sakayarojkul (タイ・マヒドン大学, 平成 16 年 3 月 20 日 ~平成 16 年 5 月 19 日)

Kari Inngjerdingen (ノルウェー・オスロ大学, 平成 16 年 5 月 6 日 ~平成 16 年 8 月 13 日)
Ampai Phrutivorapongkul (タイ・チェンマイ大学, 平成 16 年 10 月 1 日 ~平成 16 年 11 月 15 日)

研究生 高 橋 哲 史 (北里大学大学院・薬学研究科博士課程院生)

研究生 田 内 正 敏 (北里大学大学院・感染制御科学府博士課程院生)

研究生 佐 柳 友 規 (北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)

研究生 高 際 麻 奈 未 (北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)

研究生 西 尾 昌 子 (北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)

研究生 野 中 一 樹 (北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)

研究生 成 川 晃 代 (共立薬科大学大学院・薬学研究科修士課程院生)

研究生 西 村 佳 子 (共立薬科大学大学院・薬学研究科修士課程院生)

研究生 稲 垣 弥 生 (北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)

研究生 中 尾 麻 里 乃 (北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)

研究生 野 口 昌 朗 (北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)

研究生 松 木 裕 二 (北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)

◇研究概要

基礎研究部では漢方薬の薬効の科学的解明を目的として漢方方剤や生薬の薬理及びその作用成分

の解明や作用機序の生化学的解明に関する研究を行っている。特に漢方処方薬の薬効解明では臨床効果との関連を検討するため臨床研究部との共同研究も進めている。研究テーマは「漢方処方薬の薬効解明」、「和漢薬中の多糖成分の役割の解明」、「和漢薬の新しい作用とその作用物質の解明」の3つに大別される。

本年度の研究テーマのうち「漢方処方薬の薬効と作用物質の解明」では、1) 小青竜湯およびその薬効発現成分としてのピネリン酸の気道炎症に対する作用の解析、2) 香蘇散およびその薬効成分の抗うつ作用の解析について検討した。「和漢薬中の多糖成分の役割の解明」では 1) 柴胡ペクチン様多糖の B リンパ球幼若化活性発現における Lipid raft の関与の解析、2) オウギ属植物地上部多糖の構造と腸管免疫系に対する作用の解析、3) メシマコブの高分子多糖成分と腸管免疫系に対する作用の解析について検討した。「和漢薬の新しい作用とその作用物質の解明」では、1) 和漢生薬の皮膚角質細胞に対する作用と作用成分の解析、2) 抗感染症薬の和漢薬などの植物素材からの探索と探索のための基盤研究、3) 和漢薬の中樞神経系に対する作用の解析のための基盤研究について検討を行った。

また、日タイ拠点大学方式学術交流事業の一環として、3月に永井隆之室長補佐がタイ国マヒドール大学を訪問し、和漢薬の抗インフルエンザウイルス作用及びインフルエンザワクチンに対するアジュバント作用と作用成分に関する講演を行った。11月には松本司室長補佐がマヒドール大学を訪問し、和漢薬の免疫系に対する作用と作用成分に関する講演を行った。また、同大学の Noppamas Soonthornchareonnon 助教授、同大学院生やチェンマイ大学の Ampai Phrutivorapongkul 博士を留学研究員として受入れ、タイ産生薬からの抗感染症薬の探索や多糖成分に関する共同研究を展開した。さらにノルウエーのオスロ大学との共同研究で同大学大学院生の Kari Inngjerdingen を留学研究生として受入れ、アフリカ産生薬由来多糖の免疫調節作用の解析に関する共同研究を展開した。基礎研究部ではこの他国内やフランス、エジプト、韓国などの国外研究機関および大学などとの種々の共同研究を継続して進めている。

◇受賞

山田陽城部門長は平成16年8月21日、富山市で開催された第21回和漢医薬学会大会において和漢医薬学会賞を受賞し受賞講演を行った。

◇著書

- 1) 山田陽城：薬学生・薬剤師のための知っておきたい生薬 100—含漢方処方—（日本薬学会編集），東京化学同人，2004
- 2) H. Yamada : Juzen-taiho-to-It's scientific evaluation of efficacy and clinical use (edited by H. Yamada and I. Saiki), CRC press, New York (U.S.A.), in press

◇原著

- 1) P. Khaomek, N. Ruangrunsi, E. Saifah, N. Sriubolmas, C. Ichino, H. Kiyohara and H. Yamada : A new pterocarpan from *Erythrina fusca*, *Heterocycles*, 63, 879-884 (2004)
- 2) I. Taguchi, H. Kiyohara, T. Matsumoto and H. Yamada : Structure of oligosaccharide side chains in intestinal immune system modulating arabinogalactan from rhizomes of *Atractylodes lancea* DC, *Carbohydr. Res.*, 339, 763-770 (2004)
- 3) C. S. Nergard, D. Diallo, T. E. Michaelsen, K. E. Malterud, H. Kiyohara, T. Matsumoto, H. Yamada and B. S. Paulsen : Isolation, partial characterisation and immunomodulating activities of polysaccharides from *Vernonia kotschyana* Sch. Bip. ex Walp, *J. Ethnopharmacol.*, 91, 141-152 (2004)
- 4) S. Nunome, A. Ishiyama, M. Kobayashi, K. Otoguro, H. Kiyohara, H. Yamada and S. Omura : In vitro anti-malarial activity of biflavonoids from *Wikstroemia indica*, *Planta Med.*, 70, 76-78 (2004)
- 5) P. Khaomek, N. Ruangrunsi, E. Saifah, C. Ichino, M. Kobayashi, M. Suzuki, H. Kiyohara, K. Otoguro, H. Yamada and S. Omura : Chemical constituents of *Erythrina suberosa*, *Nat. Med.*, 58, 84 (2004)
- 6) H. Kiyohara, T. Matsumoto and H. Yamada : Combination effect of component herbs of a Japanese herbal (Kampo) medicine, Juzen-taiho-to on expression of intestinal immune system, modulating activity, *eCAM.*, 1, 83-91 (2004)
- 7) C. Nemoto-Kawamura, T. Hirahashi, T. Nagai, H. Yamada, T. Katoh and O. Hayashi : Phycocyanin enhances secretory IgA antibody response and suppresses allergic IgE antibody response in mice immunized with antigen-entrapped biodegradable microparticles, *J. Nutr. Sci. Vitaminol.*

- (Tokyo), 50, 129-136 (2004)
- 8) K. Otoguro, A. Ishiyama, M. Kobayashi, H. Sekiguchi, T. Izuhara, T. Sunazuka, H. Tomoda, H. Yamada and S. Omura : In vitro and in vivo anti-malarial activities of a carbohydrate antibiotic, prumycin, against drug-resistant strains of Plasmodia, *J. Antibiot.*, 57, 400-402 (2004)
 - 9) T. Takahashi, T. Matsumoto, M. Nakamura, H. Matsui, H. Kiyohara, C. Sasakawa and H. Yamada : A novel in vitro infection model of *Helicobacter pylori* using mucin producing murine gastric surface mucous cells, *Helicobacter*, 9, 302-312 (2004)
 - 10) M. Nakamura, T. Takahashi, T. Matsumoto, Y. Akiba, H. Matsui, K. Tsuchimoto, H. Ishii and H. Yamada : Expression of leptin in two-layered culture of gastric mucous cells and fibroblasts: effect of *Helicobacter pylori* attachment, *Aliment. Pharmacol. Ther.*, 20 (suppl. 1), 125-130 (2004)
 - 11) T. Nagai, Y. Arai, M. Emori, S. Nunome, T. Yabe, T. Takeda and H. Yamada : Anti-allergic activity of a Kampo (Japanese herbal) medicine "Sho-seiryu-to (Xiao-Qing-Long-Tang)" on airway inflammation in a mouse model, *Int. Immunopharmacol.*, 4, 1353-1365 (2004)
 - 12) T. Yabe, J. T. Herbert, A. Takanohashi and J. P. Schwartz : Treatment of cerebellar granule cell neurons with the neurotrophic factor pigment epithelium-derived factor in vitro enhances expression of other neurotrophic factors as well as cytokines and chemokines, *J. Neurosci. Res.* 77(5), 642-652 (2004)
 - 13) S. J. Kim, T. Matsumoto, H. Kiyohara, T. Hayasaki, A. Muranushi, T. Hanawa and H. Yamada : Evaluation of Kampo medical education by pharmaceutical students, *J. Trad. Med.*, 21, 241-249 (2004)
 - 14) T. Yabe, T. Sanagi, J. P. Schwartz and H. Yamada : Pigment epithelium-derived factor induces pro-inflammatory genes in neonatal astrocytes through activation of NF- κ B and CREB, *Glia*, in press
 - 15) T. Sanagi, T. Yabe and H. Yamada : The regulation of pro-inflammatory gene expression induced by pigment

epithelium-derived factor in rat cultured microglial cells, *Neuroscience Lett.*, in press

◇総 説

- 1) 山田陽城, 永井隆之 : 基礎からみた漢方薬の薬効解明, *小児科診療*, 67, 1406-1409 (2004)
- 2) 山田陽城 : 漢方薬と化学療法, *日本化学療法学会雑誌*, 52, 547-555 (2004)
- 3) 矢部武士, 山田陽城 : 遠志と神経, *JIM*, 4, 443-446 (2004)

◇プロシーディング

- 1) 山田陽城 : 気道炎症マウスに対する神経成長因子を介した小青竜湯の作用機序の解明, *日本小児東洋医学会誌*, 20, 95-96 (2004)
- 2) H. Yamada : Complementary and alternative approaches to biomedicine: New scientific approach for natural medicine: examples of Kampo medicine, *Adv. Exp. Med. Biol.*, 546, 27-34 (2004)

◇招待講演

- 1) 山田陽城 : 漢方薬の免疫系・神経系に対する作用と予防医学への展開, 平成 15 年度熊本県ライフサイエンス調査研究会 食と予防医学分科会 (第 3 回), 熊本, 2004. 2. 9
- 2) H. Yamada : The Evidence-Based and Clinical Application of KAMPO (Traditional Japanese Herbal) Medicine, Second annual integrative medicine symposium: translating science into clinical practice, Los Angels (U. S. A) 2004. 2. 20~21
- 3) T. Nagai : Try for development of new anti-influenza virus drugs and influenza vaccine adjuvant from herbal medicines, Lecture in Faculty of Pharmacy, Mahidol University, Bangkok (Thailand), 2004. 3. 11
- 4) 山田陽城 : 感染症と漢方, 第 78 回日本感染症学会総会学術講演会, 東京, 2004. 4. 6~7
- 5) H. Yamada : Action mechanism and active ingredient of Kampo medicines on immunological and neural system as basic evidence for efficacy, Medicine in the Twenty First Century Tri-Conference & Bio-Forum 2004, Shanghai (China), 2004. 7. 24~29
- 6) 山田陽城 : 基礎研究による和漢薬の薬効解明 (和漢医薬学会学会賞受賞講演), 第 21 回和漢医薬学会大会, 富山, 2004. 8. 21~22

- 7) 山田陽城：オール・ジャパンコンソーシアムとしての和漢薬研究連合, 第 21 回和漢医薬学会大会, 富山, 2004. 8. 21~22
- 8) 山田陽城：漢方薬学研究—臨床との接点を求めて—, 日本生薬学会第 51 回年会, 神戸, 2004. 9. 8~9
- 9) 山田陽城：Action mechanisms and active ingredients of Kampo (Japanese herbal) medicines on immune and neural systems, 21 世紀機能性食品開発国際会議・第 3 回日本臨床代替医学会学術総会, 新潟, 2004. 9. 26~27
- 10) H. Yamada：Action mechanisms and active ingredients of Kampo (Japanese herbal) medicines on immune and neural systems, ブルゴーニュ大学薬学部にて講演, Dijon(France), 2004. 10. 6
- 11) H. Kiyohara：Kampo medicine in Japan—from tradition to conversion, 2nd International Herbal Medicine Symposium & Exhibition, Taipei (Taiwan), 2004. 11. 4~5
- 12) 山田陽城：漢方薬の免疫系神経系に対する作用機序と薬効成分の解析, 金沢医科大学 大学院医学研究セミナー, 金沢, 2004. 11. 15
- 13) T. Matsumoto：Studies on Bioactive Pectin polysaccharides from *Bupleurum falcatum* L., マヒドン大学薬学部にて講演, Bangkok (Thailand), 2004. 11. 18
- 14) 山田陽城：漢方薬の生体システムに対する作用と予防医学への展開, 徳島文理大学 薬学研究科オープンリサーチセンター研究報告会特別講演, 徳島, 2004. 12. 18

◇学会発表

- 1) 永井隆之, 角田健司, 山田陽城：トラネキサム酸の抗インフルエンザウイルス活性の検討, 日本薬学会第 124 年会, 大阪, 2004. 3. 29~31
- 2) 江森道子, 永井隆之, 清原寛章, 山田陽城：生薬「半夏」由来ワクチンアジュバント, ピネリン酸の気道粘膜免疫系に対する作用, 日本薬学会第 124 年会, 大阪, 2004. 3. 29~31
- 3) 清原寛章, 松本司, 山田陽城, 高橋宏之, 平山秀樹, 重本桂：天然に自生するメシマコブの高分子成分の解析, 日本薬学会第 124 年会, 大阪, 2004. 3. 29~31
- 4) 内田太一, 清原寛章, 松本司, 布目慎勇, 柴田敏郎, 山田陽城：オウギ地上部由来多糖成分の有用天然資源としての検討, 日本薬学会第 124 年会, 大阪, 2004. 3. 29~31
- 5) 金成俊, 松本司, 清原寛章, 山田陽城, 早崎智幸, 村主明彦, 花輪壽彦：薬学生から見た漢方医学教育の意義, 日本薬学会第 124 年会, 大阪, 2004. 3. 29~31
- 6) 永井隆之, 江森道子, 清原寛章, 砂塚敏明, 大村智, 山田陽城：小青竜湯構成生薬「半夏」由来ピネリン酸の気道炎症モデルマウスに対する作用の検討, 第 21 回和漢医薬学会大会, 富山, 2004. 8. 21~22
- 7) 成川晃代, 永井隆之, 伊藤直樹, 竹田忠紘, 花輪壽彦, 山田陽城：インターフェロン- α 誘発うつ様モデルマウスの作製と香蘇散料の効果の検討, 第 21 回和漢医薬学会大会, 富山, 2004. 8. 21~22
- 8) 清原寛章, 松本司, 高橋宏之, 平山秀樹, 重本桂, 山田陽城：天然メシマコブ子実体の高分子成分と腸管免疫系への作用の解析, 第 21 回和漢医薬学会大会, 富山, 2004. 8. 21~22
- 9) 金成俊, 坂田幸司, 布目慎勇, 花輪壽彦, 山田陽城：種子・果実生薬の剤形の相違による煎液の比較検討, 第 21 回和漢医薬学会大会, 富山, 2004. 8. 21~22
- 10) 松本司, 西山加奈子, 山田陽城：柴胡の免疫調節多糖による B 細胞幼若化における Lipid rafts の関与, 第 21 回和漢医薬学会大会, 富山, 2004. 8. 21~22
- 11) 西山加奈子, 松本司, 清原寛章, 渥美隆生, 山田陽城：竹節人参エキスによる表皮ケラチサイトのアポトーシス抑制, 第 21 回和漢医薬学会大会, 富山, 2004. 8. 21~22
- 12) 伊藤直樹, 永井隆之, 花輪壽彦, 山田陽城：蘇葉成分 1-perillaldehyde の抗うつ様効果に関する検討, 第 21 回和漢医薬学会大会, 富山, 2004. 8. 21~22
- 13) 清原寛章, 市野力, P. Khaomek, N. Ru, 石山亜紀, 小林美幸, 関口ひとみ, 乙黒一彦, 山田陽城, 大村智：Erythrina fusca より単離されたフラボノイドの in vitro での抗マラリア活性, 日本生薬学会第 51 回年会, 神戸, 2004. 9. 8~9
- 14) 市野力, 清原寛章, 山田陽城：タイ産生薬により単離された化合物の抗マラリア活性について, 日本生薬学会第 51 回年会, 神戸, 2004. 9. 8~9
- 15) 佐柳友規, 西尾昌子, 矢部武士, 山田陽城：PEDF は CREB 及び NF- κ B の活性化を介して新生児由来アストロサイトにおける炎症誘導遺伝子を誘導する, 第 27 回日本神経科学大会・第 47 回日本神経化学学会大会, 大阪, 2004. 9. 21~23
- 16) T. Matsumoto, T. Takahashi, M. Nakamura, H. Matsui, H. Kiyohara, C. Sasakawa and H.

Yamada: A novel in vitro infection model of helicobacter pylori using mucin producing murine gastric surface mucous cells, European Helicobacter Study Group XVII International Workshop, Vienna(Austria), 2004. 9. 22~24

- 17) T. Takahashi, T. Matsumoto, M. Nakamura and H. Yamada: Interaction of Helicobacter pylori with host gastric surface mucous cells promotes bacterial growth under the aerobic condition, European Helicobacter Study Group XVII International Workshop, Vienna(Austria), 2004. 9. 22~24
- 18) T. Sanagi, T. Yabe, T. Nakagawa and H. Yamada : Induction of pro-inflammatory genes in neonatal astrocytes by pigment-epithelium-derived factor requires activation of CREB and NF-kappaB, Society for Neuroscience 34th Annual Meeting, San Diego (U. S. A.) , 2004. 10. 23 ~27
- 19) T. Yabe, K. Kanemitsu, T. Sanagi, M. Nishio and H. Yamada: Pigment epithelium-derived factor induces pro-survival genes through CREB and NF-kappaB activation in cerebellar granule cells: Implication for its neuroprotective effect, Society for Neuroscience 34th Annual Meeting, San Diego (U. S. A.) , 2004. 10. 23~27

◇その他

- 1) 高橋哲史, 松本司, 中村正彦, 松井英則, 山田陽城: 宿主胃表層粘膜細胞との相互作用は好気条件下における Helicobacter pylori の増殖を可能にする, 第 17 回「遺伝子とその周辺」研究会, 神奈川, 2004. 8. 3~4
- 2) 西尾昌子, 矢部武士, 山田陽城: Reactive astrocyte による神経幹細胞の分化制御, 第 17 回「遺伝子とその周辺」研究会, 神奈川, 2004. 8. 3~4
- 3) 山田陽城: 生活習慣病と漢方薬—高血圧, 糖尿病, 癌を中心として—, 漢方生薬薬剤師研修講義, 東京, 2004. 10. 24

Ⅲ-2. 臨床研究部

臨床研究部長 花 輪 壽 彦 (兼任)
主任研究員 日 向 須美子 (専任)
研究員 遠 藤 真 理 (専任)
研究員 伊 藤 直 樹 (専任)
臨床検査技師 竹 内 ゆかり (専任)

鍼灸研究室室長 石 野 尚 吾 (兼務)
研究員 柳 澤 紘 (兼務)
石 原 武 (兼務)
今 泉 護 (兼務)
小 山 基 (兼務)
漢方研究室室長 村 主 明 彦 (兼務)
研究員 伊 藤 剛 (兼務)
鈴 木 邦 彦 (兼務)
及 川 哲 郎 (兼務)
早 崎 知 幸 (兼務)
高 橋 裕 子 (兼務)
大 坪 眞 紀 (兼務)
米 田 吉 位 (兼務)
八 代 忍 (兼務)
櫻 井 正 智 (兼務)
金 成 俊 (兼務)
緒 方 千 秋 (兼務)
坂 田 幸 治 (兼務)
西 郡 秀 文 (兼務)
大学院生 小田口 浩
若 杉 安希乃
伊 東 秀 憲
正 田 久 和
研究生 熊 谷 由紀絵
山 田 純 子
西 村 郁 子
浜 田 幸 弘
吉 永 明 史

◇研究概要

臨床研究部は、漢方診療部および鍼灸診療部との連携のもとで、漢方薬、鍼刺激の臨床効果の評価を行うと共に、その作用機序の解明や新たな薬効の開発を目的とした臨床研究、基礎研究を行っている。そのため、専任のスタッフのみならず、医師、鍼灸師、薬剤師等の多くが兼務研究員として参画し、以下の研究を行っている。

- (1) 「気剤の総合的研究」
- (2) 「薬価非収載の漢方方剤の有用性」
- (3) 「冷え性」の病態解明と漢方治療について」
- (4) 「癌の転移に対する漢方薬の作用の解析」
漢方薬が癌の補助療法として用いられてきたが、臨床において転移予防効果が認められる場合があることから、漢方薬が新たな転移抑制剤となり得る可能性がある。そこで、癌の転移を抑制するような漢方薬をスクリーニングし、その作用機序を明らかにしていく。
- (5) 「エストロゲン受容体に対する漢方薬の作用機序」
更年期障害に用いられる漢方薬は、エストロゲン受容体を活性化すると考えられている。

そこでレポーター遺伝子を用いたアッセイにより、漢方薬のエストロゲン様活性及び、エストロゲンとの相互作用について検討している。

- (6) 「疼痛に対する鍼治療の効果について」
- (7) 「冷え性の鍼灸治療」
- (8) 「鍼の皮膚への効果」
- (9) 「変型性膝関節症の鍼灸治療」
- (10) 「食物アレルギーに対する漢方方剤の有用性」
食物アレルギーの乳幼児に対して漢方薬が有用な例が多く見られる。そこで、マウスを用いてアレルギーを引き起こすメカニズムの解明と漢方方剤の有用性を検討している。
- (11) 「漢方薬の神経系に対する効果の検討」
北里研究所東洋医学総合研究所において、ある漢方薬がうつ症状に対してある一定の有効性を示すことが臨床的な印象として示唆されている。そこで我々はこの抗うつ様効果を基礎研究において検証し、その抗うつ様作用メカニズムの解明を行っている。
- (12) 「漢方薬の血小板に対する作用の検討」
漢方薬の血小板機能に対する作用を検討することで、漢方薬の作用機序解析と臨床にて応用可能な有効性の有無を科学的に評価する新しい方法の開発を行なっている。
- (13) 「非襲来的検査法である脈波計による動脈硬化に対する漢方薬の薬効評価」
非侵襲的な検査法である脈波伝播速度を臨床での動脈硬化の指標に用いて漢方薬の薬効を評価する。
- (14) 「漢方医学にいう「気」の科学的解明」- 1
自律神経と「気」の関係の解明するために近赤外分光法を用いた自律神経機能評価法を確立し、この方法により気剤の効果を評価可能であるか検討する。
- (15) 「漢方医学にいう「気」の科学的解明」- 2
自律神経と「気」の関係を解明するために電子瞳孔計を用いた自律神経機能評価法を確立し、この方法により気剤の効果を評価可能であるか検討する。
- (16) 「漢方医学に適した臨床研究手法の確立」
慢性頭痛に対する呉茱萸湯の効果を検討するためのレスポonder限定二重盲検プラセボ対照比較試験の実施を通じて、漢方医学に適したEBMのあり方について検討する。
- (17) 「漢方薬と自律神経機能」
漢方薬に対する人体の反応について、自律神経機能の面から量的ないし可視的かつ非侵襲的に検討することを目的とする。具体的には

瞳孔反応・深部組織酸素代謝・発汗機能などが漢方薬の投与前後で個々にどのような変化をみせ、相互にどのような関連があるのかを検討する。

- (18) 「脈波伝播速度(PWV : pulse wave velocity)をForm及びVaSeraを用いて測定した動脈硬化度の比較検討」
動脈硬化を測定する指標として、PWVが知られており、測定機器としてForm(BP-203RPE II; コーリンメディカルテクノロジー社製)またはVaSera(VS-1000; フクダ電子社製)が用いられる。両機器間には相関関係があると言われているがFormはVaSeraと比較して、HR, BP, 血管神経反射などの影響を受け、VaSeraは比較的影響が少ないと言われている。健康な成人を対象として、安静時とHR, BP, 血管神経反射などの影響が極力少ないリラックスした状態とで両方法を比較検討し、両者間の相関関係を検証する。リラックスした状態には鍼刺激を用いて行い、鍼刺激は交感神経緊張状態を取り除くと言われている経穴に行う。
- (19) 「脈波伝播速度(PWV : pulse wave velocity)から見た漢方薬の抗動脈硬化作用の検討」
- (20) 「脈波伝播速度(PWV : pulse wave velocity)を指標とした血管弾性の器質的・機能的変化に及ぼす鍼灸効果の解析」
PWVは動脈硬化の指標として用いられている。鍼灸を用いた随証治療により血流及び血管の弾力性的変化及び緊張に伴う血管収縮の変化をPWVを指標にして追跡する。またPWVは動脈硬化の指標として用いられている一方、過緊張に伴う変化もあることもまた認められている。特に白衣高血圧に対しては抗不安薬の投与が一般的であるが、鍼灸が抗不安作用と降圧効果、抗動脈硬化作用を持ち合わせていることが解明されれば今までにない使用方法が期待され、このことも合わせて評価可能かどうか検討する。
- (21) 「腸管の機能と免疫研究会」
昨年度に引き続き、第3回研究会が2003. 11. 15に開催され、「消化管機能に及ぼす漢方薬の影響- 半夏厚朴湯を中心に-」のテーマで発表を行った。

◇原著論文・著書

- 1) Hyuga, S., Hyuga, M., Yamagata, S., Yamagata, T., and Hanawa, T.: *Mao-to*, a Kampo medicine, inhibits migration of highly metastatic osteosarcoma cells, *J. Trad. Med.*, 21(4), 174-181 (2004).

- 2) 小田口浩, 若杉安希乃, 花輪壽彦: 頭痛診療における漢方の役割, CURRENT THERAPY, 22, 81-84 (2004).
- 3) 若杉安希乃, 小田口浩, 花輪壽彦: 漢方薬が瞳孔反応に及ぼす影響について—香蘇散を用いて—, 自律神経, 40 (6), 523-529 (2003).

◇学会発表・研究会発表

- 1) 日向須美子, 日向昌司, 山形貞子, 山形達也, 花輪壽彦: 高転移性癌細胞の運動能及び増殖に対する麻黄湯の効果, 第 162 回北里研究会, 東京, 2004. 6. 10
- 2) 日向須美子, 日向昌司, 山形貞子, 山形達也, 花輪壽彦: 麻黄湯の高転移性癌細胞の運動能及び増殖に対する効果, 第 21 回和漢医薬学会大会, 富山, 2004. 8. 20-8. 21
- 3) 日向須美子, 日向昌司, 山形貞子, 山形達也, 花輪壽彦: 高転移性癌細胞の運動能及び細胞増殖に対する麻黄湯及びその構成生薬の作用, 第 63 回日本癌学会学術総会, 福岡, 2004. 9. 28-10. 1
- 4) 遠藤真理, 花輪壽彦: ワーファリン使用中に漢方治療を併用し, ワーファリンのコントロールに異常をきたした 4 症例, 第 21 回和漢医薬学会大会, 富山, 2004. 8. 20-8. 21
- 5) 伊藤直樹, 永井隆之, 花輪壽彦, 山田陽城: 蘇葉成分 1-perillaldehyde の抗うつ様効果に関する検討, 第 21 回和漢医薬学会大会, 富山, 2004. 8. 20-8. 21
- 6) 伊藤直樹, 永井隆之, 花輪壽彦, 山田陽城: 蘇葉成分 1-perillaldehyde の抗うつ様効果に関する検討, 第 163 回北里研究会, 東京, 2004. 9. 8
- 7) 竹内ゆかり, 米田吉位, 玄世鋒, 花輪壽彦: 漢方薬での脈波伝播速度(PWV)を用いた検討, 第 4 回臨床動脈波研究会, 東京, 2004. 5. 22
- 8) 竹内ゆかり, 米田吉位, 玄世鋒, 伊藤剛, 花輪壽彦: 脈波伝播速度(PWV)から見た漢方薬の抗動脈硬化作用の検討, 第 21 回和漢医薬学会大会, 富山, 2004. 8. 20-8. 21
- 9) 小田口浩, 若杉安希乃, 正田久和, 伊東秀憲, 花輪壽彦: NIRS を利用した全身ホメオスタシス維持機構 - 特に自律神経機能 - の評価, 第 10 回脳代謝モニタリング研究会, 東京, 2004. 7. 24
- 10) 小田口浩, 若杉安希乃, 正田久和, 伊東秀憲, 花輪壽彦: 近赤外分光法を利用した「気剤」の薬効評価, 第 21 回和漢医薬学会, 富山, 2004. 8. 20-8. 21
- 11) 小田口浩, 若杉安希乃, 正田久和, 伊東秀憲,

花輪壽彦: NIRS を利用した全身ホメオスタシス維持機構 - 特に自律神経機能 - の評価, 第 57 回日本自律神経学会, 長崎, 2004. 10. 28-10. 29

- 12) 小田口浩, 若杉安希乃, 正田久和, 伊東秀憲, 花輪壽彦: 自律神経失調症に対して投与された漢方薬の心拍変動に及ぼす影響, 第 57 回日本自律神経学会, 長崎, 2004. 10. 28-10. 29
- 13) 若杉安希乃, 小田口浩, 伊東秀憲, 正田久和, 花輪壽彦: 漢方薬が瞳孔反応に及ぼす影響について, 第 55 回日本東洋医学会学術総会, 横浜, 2004. 6. 25-6. 27
- 14) 若杉安希乃, 小田口浩, 伊東秀憲, 正田久和, 花輪壽彦: 瞳孔反応からみる自律神経バランスに漢方薬が及ぼす影響について, 第 21 回和漢医薬学会, 富山, 2004. 8. 20-8. 21
- 15) 若杉安希乃, 小田口浩, 伊東秀憲, 正田久和, 花輪壽彦, 漢方薬が瞳孔反応に及ぼす影響について—第二報—, 第 57 回日本自律神経学会総会, 長崎, 2004. 10. 28-10. 29
- 16) 若杉安希乃, 小田口浩, 正田久和, 伊東秀憲, 花輪壽彦: 漢方薬と瞳孔不同について, 第 57 回日本自律神経学会総会, 長崎, 2004. 10. 28-10. 29

Ⅲ-3. 医史学研究部

部 長	小曾戸 洋
研究員	友 部 和 弘 天 野 陽 介 岡 部 悦 子
科研費研究員	小 林 健 二 柳 澤 貴 子 大 津 幸 恵 真 柳 誠
客員部長	多 留 淳 文
顧 問	猪 飼 祥 夫
客員研究員	大 浦 宏 勝 郭 秀 梅 A. Goble 篠 原 孝 市 鈴 木 達 彦 舘 野 正 美 戸 出 一 郎 西 卷 明 彦 長 野 仁 野 澤 隆 幸 町 泉 寿 郎 松 木 き か 水 野 洋 子 三 橋 かほり

◇研究概要

当研究部の前身は 1983 年に設置された医史学研究室で、1992 年 12 月より医史学研究部に昇格し、この下に医史文献研究室が置かれる。東洋医学は古い歴史を持つ伝統医学であるから、豊富な経験と知識の多くは古文献の形で伝えられている。従って、東洋医学を研究し、現代に十分に応用していくためには、まず歴史背景そして文献資料を把握し、その本質を明らかにする必要がある。これが当研究部の研究目的とするところで、開設以来、各研究員によって多種多彩な研究が活発になされ、日本医史学会・日本東洋医学会をはじめ、各種の学会で大きな成果を上げている。研究の基本的資料となる文献の整備にも精力を注ぎ、既に日本全国はもとより、外国の特殊研究機関と交流を結び、多くの貴重資料を獲て収蔵している。

◇学会発表

- 1) 天野陽介, 宮川浩也, 花輪壽彦: 馬王堆医書『養生方』の再検討, 第 105 回日本医史学会学術大会, 横浜, 2004. 5. 15~16
- 2) 浦山きか: 『范汪方』について, 第 105 回日本医史学会学術大会, 横浜, 2004. 5. 15~16
- 3) 大浦宏勝, 花輪壽彦, 石野尚吾: 「杉山真伝流」の継承者たち-江戸中期鍼灸術の精粹-杉山真伝流を完成-継承した人々, 第 105 回日本医史学会学術大会, 横浜, 2004. 5. 15~16
- 4) 郭秀梅: 唐代における『千金方』の形跡, 第 105 回日本医史学会学術大会, 横浜, 2004. 5. 15~16
- 5) 小曾戸洋, 町泉寿郎: 多紀家文書(北里医史研所蔵)の概要, 第 105 回日本医史学会学術大会, 横浜, 2004. 5. 15~16
- 6) 小林健二: 電脳『素問・靈樞総索引』, 第 105 回日本医史学会学術大会, 横浜, 2004. 5. 15~16
- 7) 鈴木達彦, 遠藤次郎, 中村輝子: 『今川義元伝書』における腹診の検討, 第 105 回日本医史学会学術大会, 横浜, 2004. 5. 15~16
- 8) 館野正美: 吉益東洞『古書医言』引『心卵経』攷, 第 105 回日本医史学会学術大会, 横浜, 2004. 5. 15~16
- 9) 友部和弘, 石野尚吾, 花輪壽彦: 『解体発蒙』に引用される中国医学古典, 第 105 回日本医史学会学術大会, 横浜, 2004. 5. 15~16
- 10) 西巻明彦: 薛己の外科治療概念の考察, 第 105 回日本医史学会学術大会, 横浜, 2004. 5.

15-16

- 11) 町泉寿郎, 小曾戸洋: 石黒忠恵と野口英世-石黒不円文庫調査第 1 報, 第 105 回日本医史学会学術大会, 横浜, 2004. 5. 15~16
- 12) 三橋かほり: 中国における村医の養成と医学教育-はだしの医者への再訓練, 第 105 回日本医史学会学術大会, 横浜, 2004. 5. 15~16
- 13) 宮川浩也, 石野尚吾, 花輪壽彦: 「中華医鍼様譜」について, 第 105 回日本医史学会学術大会, 横浜, 2004. 5. 15~16
- 14) 天野陽介, 小林健二, 石野尚吾, 花輪壽彦: 東博銅人形の太敦穴について, 第 55 回日本東洋医学会学術総会, 横浜, 2004. 6. 25~27
- 15) 大浦慈観, 長野仁, 花輪壽彦, 石野尚吾: 「杉山真伝流」家元-和田家(幕府鍼科医官)の名称について, 第 55 回日本東洋医学会学術総会, 横浜, 2004. 6. 25~27
- 16) 小曾戸洋, 町泉寿郎, 花輪壽彦, 石野尚吾: 馬王堆『五十二病方』の灸療法, 第 55 回日本東洋医学会学術総会, 横浜, 2004. 6. 25~27
- 17) 鈴木達彦, 遠藤次郎: 絡脈病症の再検討, 第 55 回日本東洋医学会学術総会, 横浜, 2004. 6. 25~27
- 18) 友部和弘, 長野仁, 小曾戸洋, 花輪壽彦, 石野尚吾: 豊浦元貞『豊浦遺珠』と刺絡, 第 55 回日本東洋医学会学術総会, 横浜, 2004. 6. 25~27
- 19) 長野仁, 小曾戸洋, 石野尚吾, 花輪壽彦, 多留淳文: 大塚修琴堂本『印流医術書類』について, 第 55 回日本東洋医学会学術総会, 横浜, 2004. 6. 25~27
- 20) 町泉寿郎, 小曾戸洋, 石野尚吾, 花輪壽彦: 伊藤鹿里家伝の漢方医書-吉益南涯・中川修亭-, 第 55 回日本東洋医学会学術総会, 横浜, 2004. 6. 25~27
- 21) 宮川浩也, 石野尚吾, 花輪壽彦: 「中華医鍼様譜」の円利鍼について, 第 55 回日本東洋医学会学術総会, 横浜, 2004. 6. 25~27
- 22) 町泉寿郎, 小曾戸洋, 天野陽介, 花輪壽彦: 高田藩医合田氏の歴史と蔵書, 日本医史学会例会, 東京, 2004. 10. 23
- 23) 小曾戸洋, 天野陽介, 野澤隆幸, 小林健二: 石原保秀~東亜医学協会旧蔵古医書(日漢研本)の概要, 日本医史学会例会, 東京, 2004. 11. 27

◇シンポジウム・講演会

- 1) 小曾戸洋: 古典にみる診断法, 平成 15 年度第 13 回日本東洋医学会埼玉県部会, 大宮,

2004. 3. 7

- 2) 小曾戸洋: 特別講演「宋元明の医書について」, 第5回鍼灸医学史研究会, 金沢, 2004. 10. 10
- 3) 小曾戸洋: 「漢方の三大古典」, 福島県歴史資料館平成16年度地域史研究講演会, 福島, 2004. 10. 17
- 4) 小曾戸洋: 恩賜神農像と矢数道明先生, 第50回神農奉讃会講演会, 東京, 2004. 11. 23

◇原 著

- 1) 府和隆子, 片貝真寿美, 小曾戸洋, 谿忠人: 『内外傷弁惑論』における内傷治療の用薬規範, 和漢医薬学雑誌, 21, 100-106 (2004)
- 2) 大浦広勝, 小曾戸洋: 杉山検校遺徳顕彰会所蔵の『杉山真伝流』, 日本医史学雑誌, 50, 223-242 (2004)

◇総 説

- 1) 小曾戸洋: 古典医書解題 (1), 漢方療法, 8巻1号, 40-45, 2004. 4
- 2) 町泉寿郎: 医学館の軌跡-考証医学の拠点形成をめぐる, 杏雨, 7号, 35-92, 2004. 4
- 3) 小曾戸洋: 考証医学の人々とその業績, 杏雨, 第7号, 93-108, 2004. 4
- 4) 宮川浩也, 小曾戸洋: 古典における「未病」, 漢方と最新治療, 13巻2号, 107-110, 2004. 5
- 5) 小曾戸洋: 古典医書解題 (2), 漢方療法, 8巻3号, 22-25, 2004. 6
- 6) 小曾戸洋: 古典医書解題 (5), 漢方療法, 8巻5号, 22-26, 2004. 8
- 7) 小曾戸洋: 漢方の歴史, 日本小児東洋医学会誌, 20巻, 101-110, 2004. 9
- 8) 小曾戸洋: 古典医書解題 (3), 漢方療法, 8巻6号, 22-27, 2004. 9
- 9) 小曾戸洋: 古典医書解題 (4), 漢方療法, 8巻7号, 20-25, 2004. 10

◇プロシーディング

- 1) 小曾戸洋: 古典にみる診断法, 平成15年度第13回日本東洋医学会埼玉県部会抄録集, 2004. 3

◇著 書

- 1) 北里研究所東洋医学総合研究所医史学研究部: 『俗解難経抄』, 北里研究所東洋医学総合研究所医史学研究部, 2004. 2. 15
- 2) 小曾戸洋: 江戸時代医学・本草学資料の整理と研究, 平成14~15年度文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書, 2004. 3. 31
- 3) 小曾戸洋: 東方中国語辞典, 東方書店, 2004. 4,

部分執筆

◇その他

- 1) 小曾戸洋: 処方名のいわれ (121) 麻黄附子細辛湯, 漢方医学, 28巻1号, 28, 2004. 1
- 2) 小曾戸洋: 私と医史学, 薬事日報, 第9857号, 31頁, 2004. 1
- 3) 小曾戸洋: 矢数道明先生讃の神農画像三軸, 漢方と最新治療, 13巻1号, 90-92, 2004. 2
- 4) 小曾戸洋: 古医書のはなし (6) 黄帝内経素問, 伝統医学, 7巻1号, 33, 2004. 3
- 5) 戸出一郎, 町泉寿郎: 寛政甲寅考試書類三-その1, 日本医史学雑誌, 50巻2号, 291, 2004. 6
- 6) 小曾戸洋: 処方名のいわれ (124) 桂枝加芍薬大黃湯, 漢方医学, 28巻2号, 90, 2004. 4
- 7) 小曾戸洋: 古医書のはなし (7) 黄帝内経靈樞, 伝統医学, 7巻2号, 67, 2004. 6
- 8) 小曾戸洋: 処方名のいわれ (125) 茵陳蒿湯, 漢方医学, 28巻3号, 138, 2004. 7
- 9) 戸出一郎, 町泉寿郎: 寛政甲寅考試書類三種-その2, 日本医史学雑誌, 50巻3号, 428, 2004. 9
- 10) 大浦慈観: 「江戸後期から昭和前期にかけての杉山流・杉山真伝流」, 第5回鍼灸医学史研究会, 金沢, 2004. 10. 10
- 11) 鈴木達彦: 「初期腹診書にみられる病理観の再検討」, 第5回鍼灸医学史研究会, 金沢, 2004. 10. 10
- 12) 小曾戸洋: 傷寒論の紹介と読み方, 日本薬剤師研修センター平成16年度漢方薬・生薬研修会, 東京, 2004. 10. 24
- 13) 小曾戸洋: 処方名のいわれ (127) 加味帰脾湯, 漢方医学, 28巻4号, 188, 2004. 11
- 14) 小曾戸洋: 文庫めぐり (26) 静嘉堂文庫, 日本医史学雑誌, 50巻4号, 590, 2004. 12
- 15) 小曾戸洋: 古医書のはなし (8) 黄帝内経太素, 伝統医学, 7巻4号, 139, 2004. 12
- 16) 戸出一郎, 町泉寿郎: 寛政甲寅考試書類三種-その3, 日本医史学雑誌, 50巻4号, 617, 2004. 12
- 17) 小曾戸洋: 処方名のいわれ (129) 紫雲膏, 漢方医学, 29巻1号, 40, 2005. 1
- 18) 小曾戸洋: 古医書のはなし (9) 黄帝内経明堂, 伝統医学, 8巻1号, 33, 2005. 3

◇主な活動・報告事項

主任研究員であった町泉寿郎は二松学舎大学東洋学研究所国際漢字文献資料センターの専任講師として転出(平成15年10月~), 当研究部に

は客員研究員として引き続き助力願うことになった。

町は平成 16 年 6 月 26 日の第 55 回日本東洋医学学会総会（横浜）において第 17 回日本東洋医学学会学術賞を受賞した。

当研究部客員研究員の A. Goble（米国オレゴン大学日本学）は平成 16 年 6 月 21～7 月 14 日，8 月 17 日～9 月 8 日に来日し，当研究部で研究活動を行った。

当研究部では平成 16 年 2 月 25 日に『俗解難經抄』（A5 判・216 頁）を出版した。翻字研究は宮川浩也が担当した。また平成 16 年 3 月 31 日には『江戸時代医学・本草学資料の整理と研究』（平成 14 年度～平成 15 年度科学研究費補助金・特定領域研究（2）「江戸のモノづくり」研究成果報告書，研究代表者・小曾戸洋）（A4 判・500 頁）を出版した。

平成 16 年度・平成 17 年度も先年に引き続き文部科学省科研費補助金を得ることが決まり，「江戸時代医学・本草学資料の整理と研究」の作業を継続することになった。これに関連する事項としては，平成 16 年 1 月 24 日に日本漢方医学研究所所蔵の古医書（石原保秀文庫・東亜医学協会旧蔵）870 点 2456 冊を当研究部で保管・整理・補修のため搬入。6 月に目録作成作業を終えた。8 月 10 日には三鷹市下連雀の合田家（旧医家）から古医書を多数含む蔵書 139 点 451 冊の譲渡を受け，当研究部に搬入。整理・補修作業を終了した。平成 16 年内に当研究部で得た最大級の古医学資料は曲直瀬養安院家文書である。愛知県知多郡の曲直瀬暢夫氏が所有するこの文書類は江戸時代初期から続くきわめて良質の資料群であるが，度重なる水害に遭って，披見も困難なものが大半。これらを 7 月 19 日，9 月 25 日，10 月 5 日の 3 回にわたって当研究部に搬入し，鋭意修復作業を行った（平成 16 年末に修理完了。目下解読・整理作業継続中）。

小曾戸は平成 16 年 3 月 11 日に上原記念生命科学財団平成 15 年度研究助成金の交付を受けた。研究テーマは「中国宋元明の医薬書の研究とその成果の公刊」。目下鋭意出版準備中。

小曾戸は，第 19 期日本学術会議第 7 部会法医学社会医学研究連絡委員，日本医史学会常任理事，日本東洋医学会理事・編集委員，武田科学振興財団杏雨書屋運営協議委員などの任を受け学術・社会活動を行った。また小曾戸は筑波大学理療科・東京衛生学園専門学校，友部は筑波技術短期大学・東洋高等鍼灸学校で講師をつとめ，教育活動を行った。

小曾戸は第 106 回日本医史学会総会会長（平成 17 年度）を任ずることになり，他の研究員とともに

にその準備作業を行った。